

フォントの最新事情

DTPにおいてフォントは非常に重要な要素の一つです。
書籍などのコンテンツ制作にあたって留意しておきたい、
フォントに関する最新の動きと当社の対応をご紹介します。

■モリサワパスポート、LETTSの今後

2023年に新規契約の受付を終了したモリサワパスポートは、長年にわたり出版・デザイン業界において標準的なフォントライセンスでした。代替として提供が始まった「MorisawaFonts」は、クラウド上でフォントを管理し、ユーザー単位でアクティベートできる仕様に変更されています。

なお、現在モリサワパスポートを契約中のユーザーは契約更新により最長で2028年12月末まで利用できます。しかし今後の制作環境の変化やデータ互換性を考慮すると、DTP制作やデザインを多く行っている作業現場においては極力早いうちに新サービスに移行しておくのが安全です。

LETTS (Leading Edge Type Solution) は国内の主要フォントベンダーであるフォントワークスが提供するフォントセットです。「筑紫書体」など個性的な書体群で知られ、印刷物だけでなく映像、Webなど多様なメディアで活用されています。2023年、フォントワークスは米 Monotype社に買収され、2025年3月には社名が「Monotype株式会社」へ変更されています。Monotypeとの統合により、REN FONTやたづがね角ゴシックなど個性的で多彩な書体が追加され、表現の幅は広がっています。

今後はサービス体系や提供書体も段階的に統合されていく見込みですが、旧来のLETTSを契約中のユーザーは2024年11月以降契約更新ができなくなるため、新LETTSの契約が必要となります。

■移行時の注意点

新しいサービスへの移行には注意も必要です。移行に伴い、ベンダー側で一部書体の字形や文字詰め、マッピングの見直しが行われているため、過去のデータを再利用した際にInDesign上で文字や文字組が正確に再現されないケースがあります。文字化けや改行位置の

ズレなどを防ぐため、過去データの事前確認が重要です。当社では、フォント置き換えの際に発生する不具合の事前チェック、また移行前後の照合検査等も行っています。

新規作成する商品でも、デザイン、組版、製版の各工程で使用するフォントサービスを揃えておく必要があります。例えば、モリサワパスポート環境で作成されたデータをMorisawaFonts環境で開くと、やはり文字化けや文字ズレなどが発生する可能性があります。PDF/Xでの受け渡しであればこのようなフォントのトラブルは起きません。

■クラウドサービスの現状

Adobe Fontsは、Creative Cloudに含まれるクラウドサービスで、欧文・和文あわせて数千種のフォントを利用できます。同じAdobe製品であるIllustratorやInDesignとは相性がよく、使い勝手の良いフォントサービスとして普及が進んでいます。

ただし、クラウド依存の特性上、制作現場では注意

字形変更例

書体：A P-OTF 櫻明朝 Oldstyle Min2 B		
モリサワパスポート	MorisawaFonts	差異
禰	禰	禰

文字詰め変更例

書体：A P-OTF ぺんばる StdN M	
モリサワパスポート	
ABEKMHOPTXaeopcx	
MorisawaFonts	
A B E K M H O P C T X a e o p c x	
差異	
ABEKMHOPTXaeopcx	ABEKMHOPTXaeopcx

が必要です。Adobe Fontsはネット接続が前提で、オフラインの環境下ではフォントが表示されません。印刷会社によってはAdobe Fontsが使用されたデータの入稿を受け付けていない場合もあります。

さらに、クラウドサービスであるために多くの書体が揃えられている反面、同じ書体名で多くのバージョンが存在し、アクティベートの際に別バージョンをインストールしてしまう危険性があります。当社においてもAdobe Fonts使用に起因する、ルビの文字化け事例が確認されています。

当社では文字品質の安定を図るため、Morisawa FontsやLETsなどのライセンスフォントを主軸とし、Adobe Fonts等のクラウドサービスは極力使用を避けています。

■人気欧文フォントセットの販売終了

Adobeが提供していた欧文フォントのベースセットである「Adobe FontFolio」が2022年に販売が終了しました。これは、クラウドサービス（Adobe Fonts）への移行を進める方針に沿ったものです。FontFolioには、Helvetica、Garamond、Myriad、Minionなど、出版や広告の定番欧文書体が多数収録されており、今でも業界内で重宝されています。当社ではFontFolioのライセンスを保有しています。Adobe Fontsを使用しなくとも安定した欧文組版が可能です。

モリサワパスポート終了スケジュール

	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年
新規契約（複数年）	→	（2022年10月末サービス終了済み）						
新規契約（単年）	→	（2023年3月末サービス終了済み）						
契約更新（複数年）	→	（2023年3月末サービス終了済み）						
契約更新（単年）						→（2028年12月末まで）		
新書体追加	→	（2023年12月末サービス終了済み）						
台数追加							→（2029年12月末まで）	

LETs終了スケジュール

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年
新規契約	→	（2021年11月末受付終了済み）					
新書体追加	→	（2022年3月末提供終了済み）				（2027年11月末全サービス提供終了）	→
台数追加				→（2024年11月末受付終了済み）			→
契約更新				→（2024年11月末受付終了済み）			→

■写研書体のニーズ

一部の出版物や定期刊行物では、「石井中明朝」「石井ゴシック」など、写研の書体を使いたいという声は根強くあります。長年、写研はデジタルフォントを一般提供していませんでしたが、2024年モリサワと提携し、写研書体の一部をMorisawaFontsで提供予定であると発表しました。

すでに「石井明朝体」などの試作が進められており、今後は正式な提供が期待されています。当社でもこの動向を注視しており、対応開始にあわせて環境を整備する予定です。

■フォント管理の重要性

繰り返しになりますが、制作現場で複数のフォントサービスを併用する場合、フォント管理の煩雑さや書体混在による不具合が課題となります。特に過去データの再利用では、異なるサービスの書体が混在すると、文字化けや文字ズレのリスクが高まります。

当社では、和文はMorisawaFonts・LETs、欧文はAdobe FontFolioを中心に使用し、フォント管理ツールで一元管理することにより、各案件でのフォント使用状況を正確に把握しています。過去データについても、事前に書体の互換性を確認し、置換など適切な対応を行っています。データ制作の品質維持には、安定したフォント管理体制が必要です。